

## ★ 2026年植樹活動Report ★



2022年より地球温暖化防止への取り組みとして山梨県笛吹市において持続可能な森づくりを目指し、地域の自然環境を守るための植樹活動を行いはじめて今年で5年目となりました。

(株)日の丸リムジン38名、シティパークアンドサービス(株)10名の社員が参加しました。



今年も森の管理をして下さっている黒坂オートキャンプ場様より森に住む生き物・木の役割、広葉樹と針葉樹の違いなど説明いただきました。

**森に住む生物：シカ、イノシシ、ムササビ、リス、タヌキ、キツネ、野鳥**  
・シカ：クヌギやコナラの若芽やドングリなどの実、草を食べる。



# ★ 2026年植樹活動 Photo Gallery ★

木の役割：

## 1. CO<sub>2</sub>を吸収し地球温暖化を防ぐ

木は成長する過程で大気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸収し、炭素として幹や枝、根に蓄えます。

- 地球温暖化の抑制
- 脱炭素社会への貢献
- 気候変動対策

## 2. 水を蓄え、洪水や土砂災害を防ぐ

森林の土壌はスポンジのように雨水を蓄えます。

- 洪水の軽減
- 土砂災害防止
- 水源保全

## 3. 生きもののすみかになる

森林は多くの動植物の生活の場です。

- 生物多様性の保全
- 生態系の維持
- 希少種保護

## 4. ヒートアイランド現象を緩和する

木陰や葉からの蒸散作用により周囲の温度を下げます。

- 都市の暑さ対策
- 快適な街づくり

## 5. 心を癒し健康に貢献する

緑豊かな環境は心身のリフレッシュにつながります。

- ストレス軽減
- 健康増進
- 地域コミュニティ形成



## ★ 2026年植樹活動 Photo Gallery ★

### 植樹方法

- ① 苗木を植える前に根が伸び広がるよう、20cmほど深く穴を掘ります。
- ② 根を傷めないように苗木を植え付け、接木苗の接木部分は地上に出し、深植えしないようにします。
- ③ 培養土を入れます。
- ④ たっぷり水をかけます。
- ⑤ 穴を掘った際の土を盛ります。
- ⑥ 盛った土を踏み固めます。



鎌を片手に昨年、一昨年  
植樹した箇所の草刈りもしました。



## ★ 2026年植樹活動 Photo Gallery ★



今年も  
オタマジャ  
クシが  
沢山誕生し  
ており、  
植樹終了後、  
撮影



2024年  
植樹した苗



2025年  
植樹した苗

笛吹市の森は、古くから人々と自然が共生してきた場所です。

自然を活かした森づくりを目指す笛吹市の想いに賛同し、当社は人工林のスギやヒノキではなく、この地域に昔から自生しているクヌギの苗木48本を植樹しました。

クヌギはどんぐりを実らせる木であり、里山の生態系を支える重要な役割を担っています。

一方で、近年は山間部での食料不足などにより、本来は山奥に生息していた鹿が人里近くまで下りてくるようになりました。

その影響で農作物や果樹園への被害が増えているほか、クヌギやコナラは鹿の好物でもあるため、昨年植樹したクヌギの苗木も新芽を食べられてしまいました。

当社は、植えて終わりではなく、今後も苗木の成長確認や育樹活動を継続し、森林環境の保全に取り組んでまいります。そして将来的には、この活動を発展させ、『日の丸の森』と呼ばれるような豊かな森づくりを目指していきたいと考えています。

これからも自然との共生を大切にし、生き物にも人にもやさしい森づくりを通じて、より効果的な自然再生と環境保全活動を継続してまいります。

「SDGs目標13『気候変動に具体的な対策を』、目標15『陸の豊かさも守ろう』の実現に向け、今後も継続的に取り組んでまいります。」

私たちは今後も温暖化防止の活動を続けてまいります。



1台の乗用車が1年間  
走行で排出するCO<sub>2</sub>を  
吸収するには、何本の  
杉の木が必要？

- ① 約56本
- ② 約160本
- ③ 約1,000本



## ★ SDGs勉強会 Photo Gallery ★

SDGsとは？（貧困や健康、教育、エネルギー、環境、平和など、さまざまな分野に関する17の目標）

SDGsランキングクイズ（全10問）

Q.問題国連などがまとめた「SDGs達成度ランキング」において、

次の国を達成度が高い順（＝上位順）に並べてください。

a.日本    b.フィンランド    c.デンマーク    d.ドイツ

SDGsグループディスカッション



## ★ SDGs活動 Photo Gallery ★

SDGs研修2日目はSDGsへの理解を深める取り組みの一環として、梨の摘果作業を行いました。



摘果作業後は『耕作放棄地や事業としての農業』をテーマに講話を受講。

講話では、日本各地で増加している耕作放棄地の現状や課題について学ぶとともに、農業を単なる生産活動としてではなく、持続可能な地域づくりや環境保全、地域経済の活性化につながる重要な産業として捉える視点について理解を深めました。

また、農業には食料生産だけでなく、景観維持や生物多様性の保全、地域コミュニティの形成など、多面的な役割があることを学びました。

さらに、耕作放棄地の有効活用や新たな農業ビジネスの可能性についても理解を深める機会となりました。今回の研修を通じて、地域社会や環境とのつながりを改めて認識し、企業として持続可能な社会の実現にどのように貢献できるかを考える貴重な機会となりました。

